



今月の内容

最終試験 帰国準備 バルカン旅行 など

こんにちは。6月末に無事帰国しました、田中です。日本の蒸し暑さにダウンしそうです。

これが最後の報告書になるため6月にあったことだけではなく、9か月間トルコに滞在して感じたことなどを長くなりますが書いていこうと思います。

≫ 最終試験

6月中旬頃に期末のテストがありました。私は2つの授業しかとっていなかったため2つのテストだけ受けました。今学期の中間のテスト方式はオンラインでしたが、今回は対面だったので秋学期ぶりに友達に会うことができました。

また、日本語の試験後、日本語クラスのみんなが送別会を開いてくれました。当初参加人数が10人ほどの予定だったのが30人以上と多くの人に集まってもらえてとてもうれしかったです。彼らと一緒に授業に参加させてもらったことにとっても感謝しています。

≫ 帰国準備

事前に決まっていた帰国日まで寮に滞在できないことが分かったため帰国日を早め、寮退去後に滞在するホテルを予約してから物の処分や寮のデポジットについての諸手続きを始めました。

日本に持ち帰らないお皿や調理器具などは掃除のお姉様方にお願

し、数日後、試験の結果が出て、英語の最終試験の出来はあまりよくありませんでしたが、日本語と英語の単位は無事取得できました。



この時期に食堂で飲める無料のスープ。ただ時間が21時から開始なのでもう少し早く始めてくれると個人的にちょうどいいのかなと思います。

て処分してもらいました。一番食材の処分が大変だったので計画性が大事だと思いました。

デポジットに関しては寮退去までに振り込めるか聞いたところ、可能と言われたため渡された手続用紙にIBANや電話番号、サインなど書いて提出しました。

≫ バルカン旅行

最終試験を終えた後退寮するまで一週間以上の期間があったためバルカン半島にあるモンテネグロ、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナに行ってきました。

モンテネグロ、ティヴァト空港へ向かうトランジットでドルマバフチェ宮殿、ブルーモスクで有名なスルタンアフメト・モスク、そして2度目のアヤソフィアを見してきました。

その後空港泊をして翌日、ティヴァト空港へ。到着後タクシーで城壁に囲まれたコトル旧市街へ向かいました。雨が降って大変でしたが、雨だからこそ晴れの時とは異なる景色を見ることができました。また、コトル旧市街を見下ろせる聖イヴァン要塞へ登っている途中で一瞬だけ晴れて世界一美しい湾をより楽しむことができました。

次の日はバスでクロアチアのドゥブロヴニクに。今まで何度か海外に行かせてもらっていますが、飛行機ではない国境越えは初めてでした。何事もなくホテルに。ホテルの人に「日本人！？珍しい、前はいっぱい来てたけど今は全然来ない、どうして」と聞かれました。「経済がね…」と返しておきましたがドゥブロヴニク、物価高すぎ。ジブリ映画の『魔女の宅急便』や『紅の豚』の舞台になったと言われている旧市街をスルジ山から眺めました。行きはロープウェイで登り、帰りは歩いて下って旧市街に行きました。この日も雨が降っていたのですが、スルジ山に登った時だけ晴れて夕日と虹が旧市街にかかる景色を見ることができました。夜の旧市街を見て、暗い中、周りを警戒しながらホテルに帰りました。

>スルタンアフメト・モスク



トルコで一番見たかったスルタンアフメト・モスク。何度も「来て良かったなあ」と呟きながら激写してました。スタンドグラスの青、白い壁、装飾全てが素敵でした。

>コトル旧市街



聖イヴァン要塞へ向かう途中で撮ったコトル旧市街。統一された赤茶色の屋根とコトル湾の色の組み合わせが最高。裏道からも登っていたのでホテルにつく頃はへとへとで足が動きませんでした。全く知らないはじめましてのおじさまおばさまたちと励まし合いながら登りました。

>ドゥブロヴニク旧市街



スルジ山から見るドゥブロヴニク旧市街。登る前まで雨が降っていましたが、この時だけ晴れました。雨は降れど所要所で晴れるので「実は自分運がいいのでは」とこの時強く思いました。ここに来ているだけでも運はいい。ロープウェイに乗るとき乗客が私しかいなかったのが貸し切りでした。係員さんがこの時期は晴れているんだけど最近雨が数日も続いて珍しいと言っていました。

4日目の夕方、バスでボスニア・ヘルツェゴビナへ移動する予定だったので午前中はドゥブロヴニク旧市街を見て回っていました。

そしてバスに乗ってボスニア・ヘルツェゴビナの古都**モスタル**へ。夜泊まる場所に着いたはいいものの従業員が居ない上に施錠もされていて、従業員に電話をしようにもSIMカードもないという問題に直面しました。そのため道行く人に話しかけて電話してもらうことに。レストランなら英語が通じるのですが、普段は通じないため気合の英語と身振り手振りでパンケーキ屋台のお姉さんに助けられました。その日は少しだけ街を見てすぐ寝ました。

5日目は移動もなかったため、次の日の電車の予約や近場の観光をしてゆっくりと過ごしました。モスタルにあるMuseum of War and Genocide Victims（戦争と虐殺の犠牲者の博物館）で紛争と大虐殺の展示を見て精神はすり減りました。ただ共存していた隣人だったはずなのに、殺し合った対立の歴史を知り、考えさせられました。

私は収容所の様子をマネキンで再現した展示を10秒も見れませんでしたが。しかし今でも詳細に思い出せまじ忘れることはないでしょう。

6日目の早朝に鉄道でモスタルから**サラエヴォ**に行きました。今まで1時間以上の遅延は当たり前前のバスで移動していましたが、鉄道では遅延なしで移動することができました。その日は紛争時の包囲戦が起きた際、物資などの往来に使われたトンネルを展示するトンネル博物館、第1次世界大戦勃発のきっかけとなったサラエボ事件が起きたラテン橋などを見に行きました。

>スタリ・モスト（古い橋）



モスタルのネレトヴァ川に掛かる橋。ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争中、破壊されたが共生や和解の象徴として復興し、世界遺産に登録された。モンテネグロ、クロアチアとは違う食べ物などトルコに似たイスラームの雰囲気を持つところでした。

>ブラガイ



モスタルからバスで30分ほどにあるブラガイ。イスラームの聖地とされる修道院と神秘的な洞窟があります。私は時間の関係で修道院には入りませんでした。近くのレストランでワインと鱈のグリルを食べながら景色を楽しみました。

>トンネル博物館



実際に使われていたトンネルを見ることができました。この写真サイズではわかりにくいかもしれませんが、壁がぼこぼこしているのは銃弾の跡。165cmの自分がかまがないと通れず、当時は光もなく足場も悪かった中ここを通っていかないと生きるために必要なものが手に入らなかったのだと今の生活が如何に当たり前のもではないということを実感しました。ここに行くのが大変でしたが、わざわざ自分と一緒にきて案内してくれた地元の方や、ここで降りるんだよと言葉は通じないけど教えてくれたバス運転手のおじさんに感謝。

最終日はバシュチャルシア広場を中心に観光しつつ、サラエヴォにある迫撃砲の砲弾による死者を出した爆発の跡、サラエヴォのバラを探しました。

サラエヴォのバラはかなり意識しないと見つからず、それだけ溶け込んでいたのかなと思いました。大聖堂付近にあったバラを撮っていたところ、近くで遊んでいた幼い少年が何を撮っているのか興味深そうに近付いて、結局何を撮っているんだという顔で帰って行きました。あやしい人ではないんです…。

以上、自分にとって衝撃的過ぎたので大きなスペースをとって書いてしまいました。長々とすみません…。

モンテネグロ、クロアチアの景色や食(肉に肉を挟んでチーズを山盛りでかけるモンテネグロ風の食べ物もう食べない)は初めてのものばかりで衝撃的でしたが、それらとは違うベクトルだったボスニア・ヘルツェゴビナ。イスラームとヨーロッパ風の街並みが残り、モンテネグロとクロアチアとは雰囲気の異なる国でした。また、紛争の傷跡や痕跡を見て、ただ歩いてただけで民間人が撃たれる地獄のような光景が昔この国であったのかと思いました。またこの衝撃を忘れないうちに日本の広島や長崎などに行き、戦争とはを自分なりに考えたいと思った旅でした。最初は天気にも恵まれなかったですが、本当に行けて良かったです。

≫バルカン旅行後から日本帰国まで

バルカンからトルコに戻った後、日本帰国まで1週間を切っていたためホテルに滞在し、仲良くしてもらった友人数名と会い、そして寮退去前に振り込み可能と言われていたデポジットが振り込まれていなかったなのでその問題を解決しようと動いていました。

寮退去の際、デポジットの振り込み希望用紙にもう一度書かされたため、振り込みはいつなのか聞いたところ「わからない」と言われました。そのため帰国までに申し込みを必ず完了できるようにしてくれないかとメールで交渉していました。

>サラエヴォのバラ



左はフェルハディア通り、右はマルカレ市場で。これら以外にも大聖堂の近くやトンネル博物館にもありました。マルカレ市場のバラの方は砲弾が見え、被害の大きさや実際にここで人が亡くなったことを実感させられました。こういったバラは日常に溶け込んでおり、道行く人に踏まれていたりしていました。

しかし、何も返信が来なかったため帰国間近に学校に行って直接何とかしてもらいました。兎も角お金が戻ってきて良かったです。

またこの期間中にベルガマという街に遺跡を見に行きました。

小さな街でしたが、ヘレニズム・ローマ・ビザンチン時代の遺跡が多く残っており、アクロポリスから街を見たり、アスクレピオン、トラヤヌス神殿、円形劇場の大きさに驚きました。

帰国日はイスタンブールを経由して日本に戻りました。

》トルコに約9か月滞在して

トルコに滞在して気付いたことや思ったことなど書いていこうと思います。

>言語

私が留学する前、イズミル経済大学の使用言語が英語と聞いていましたが、実際はそうでなく英語と異なる、全く知らないトルコ語に触れた9か月間でした。イズミルに到着して、スーパーで物の値段を英語で聞いても店員には通じなくて、「これはまずいことになった」と思ったのを覚えています。大学内の寮で英語が通じないことにも絶望し、学校も実は英語が通じないのではと思いましたが、基本的に英語の授業で安心したことを覚えています。

そのため英語は大学内や旅先で話すという形でした。英語そのもののスキルが上がったのかはわかりませんが、英語を話す意識が変わったと思います。当初は自分の限られた語彙の中でどう伝えるのか困って何も言えませんでした。何かしら言葉にしないといけないなととりあえず話すようになりました。旅先でもそういった意識でいろいろな人に話しかけて一緒に観光したりと面白い体験ができました。

そしてトルコに来るまで全く手を付けていなかったトルコ語。英語が通じないことにまずいと感じ、トルコ語で初めて覚えたのは数字はどのように言うのかということでした。挨拶などの簡単なものしか覚えられませんでした。相手が大体何を言っているのかなんとなくですがわかるようになりました。ただもう少し勉強してから留学していればと思う場面が多くあったため、**トルコへ留学する方はトルコ語を勉強するべきだ**と思います。

>日本について

日本人として日本語の授業に参加したり、日本に興味のある方とお話をして思ったのが「**日本はアニメ、漫画のイメージが強すぎる**」という点です。日本に興味のある人と話すときは必ず「どんなアニメが好き？自分は〇〇が好きで～、え？アニメそんなに見ないの？」といった会話が必ずありました。本当に。私はアニメや漫画を読みますが、海外で知られているような作品をそこまで知らないのです。彼らの「**日本人は漫画やアニメを毎日見ている**」というイメージには少し困りました。

また韓国人や中国人に間違えられるケースが多かったのですが、特に一番多かったのは韓国人だと間違えられて話しかけられ、相手に勝手に失望されたこと。「何人？韓国人じゃないの？…そっか、自分は韓国のアイドルが好きで」と今の韓国アイドルの人気ぶりはすさまじいもので、韓国の自分たちの国のプロデュース力を実感すると同時に日本は？と日本の魅力って漫画やアニメしかないのかと日本のプロデュース力が弱いのか、現状で満足しているのかかわりませんがそう感じました。そのためトルコは親日国家と言われていますが、親切だけど、日本に親しいけど、想像するような親日となんか違う気がしました。言語化が難しい。



>トルコという国

トルコで一番大変だったのは、イカメットなどの手続き関係です。手続き関係は適当なことが多く、欲しい書類と違う書類を渡されたり、指定された日時は忘れられることもありました。こういった時は諦めずに交渉したり、しつこく確認しなければならなかったため、よほどのことがない限り諦めない姿勢を身につけました。諦めずにしつこくしないと手続きをする人が動いてくれず、後で自分が大変な目にあります。

そういったいい加減なところはありますが、トルコの人たちは親切な人が多いです。自分がトルコ語を理解できなくてもトルコ語で話して助けようとしてくれたり（向こうは英語を話せない）、別の人を呼んで何とかしてくれようとしてくれます。そういった彼らの困っていたら助けようとしてくれるホスピタリティ溢れる姿勢が大好きです。



最終日、イスタンブールにあるガラタ橋で撮った写真。

》最後に

留学させてくれた両親には感謝の気持ちでいっぱいです。相談に乗ってくれたり、日本食が恋しくなった時に日本の食べ物を郵送してくれたり本当にありがとうございました。

いろいろな人のやさしさに助けてもらいながら過ごした、あっという間の充実した9か月でした。トルコという東西の文化が交わる、面白い国に行けて良かったです。

Yaşadıklarım herkesin yaşayabileceği şeyler değil ve bu kadar değerli bir deneyim yaşadığım için şanslıyım. Umarım bu deneyim gelecekte faydalı olur. Yurtdışında eğitim almamda bana yardımcı olan herkese teşekkür etmek istiyorum.